

## 2021丹波縄文の森塾1日目（6月26日）

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令のため、縄文の森塾の開催を見合わせていましたが、ようやく6月26日（土）に開塾することができました。

開塾式では、坂本 裕昭副塾長から約1万5千年前の縄文時代には、人々が厳しい自然の中、色々と知恵を絞って生活をしてきたことを例に、この塾での様々な体験を通して、工夫する力「知恵」を付けてもらいたいことなどの話がありました。その後、この塾での決まり事などについて説明があり、続いてサポーターの皆さんやスタッフの紹介がありました。

開塾式の後には、塾生が1年間使う名札を木片を使って自分で作りました。名前と班名のほか好きな絵を描いたりして、それぞれ個性ある名札が出来上がりました。

続いて、栗園の中にある畑でサツマイモ植えを体験しました。まず、杉本サポーターからサツマイモの種類や植え方についての説明があり、畑で一人1本ずつ苗を植えました。自分が植えたところに竹で作った名札を差し、今後、各自で成長を観察していきます。そして秋には自分が植えたサツマイモを収穫し、それぞれ持ち帰って家族で味わってもらうことにしています。どんなサツマイモができるか楽しみです。

お昼には、食事サポーターの皆さんが作っていただいたタコライスと野菜スープを、みんなで美味しくいただきました。

午後のプログラムは、水生生物観察と里山自然観察です。まず、ペットボトルを使って水生生物を捕獲する罠（仕掛け）を作り、その中に米ぬかを煎った餌を入れて小川に仕掛けました。そして、罠に獲物が入るのを待つ間に、里山の自然観察を行いました。まず角谷アドバイザーから里山には、マムシ、スズメバチやマダニなどの危険な動物がいることや、出会ったときの対応方法について説明を受けた後、里山を散策しながら様々な植物や生物などを観察しました。また、丹波の森公苑で飼育する国蝶オオムラサキの観察も行いました。

その後、山科先生（ホトケドジョウを守る会会長）の指導のもと、仕掛けた罠を回収したり、網ですくったりして公苑の水辺に棲む生き物を採取し、観察しました。意外にも一番多く獲れたのは外来種であるザリガニ。その他、カワムツ、メダカ、オタマジャクシ、ヌマエビなどが獲れました。



開 塾 式





里山自然觀察



水生生物觀察